

待ちに待った給食

麦ごはん 納豆

たけのこの煮物

小松菜のみそ汁

夢の車 ほぼ日刊 C-carat

第648号

神町中学校 夢色通信社

令和2年5月27日



山形新聞 少年少女の声（5月27日より）

最後まで部活動楽しむ 3年 本間 恋美

まだ、大会できちんとした結果を残したことがない。だから、私たちは冬の間、基礎の練習や苦手だったバッティングをがんばり、新型コロナウイルスがはやり部活ができなくも、1人1人が自主練を続けてきた。地区総体では絶対に勝つんだと思いながら・・・。

なのに、地区総体が中止になってしまった。私たちは、まだ大会で1勝もできていないのに。後輩にかっこいい所を見せられていないのに。今まで支えてくださった先生方やコーチ、保護者に「勝つ」という恩返しもできていない。この3年間は何だったのだろうか。何のために部活動をしてきたのだろうか。地区総体の中止を聞いた時、様々な思いが込み上げてきた。「これで引退なの?」「終わりなの?」「そんなの無理だ」。勝ってみんなで笑って終わりたかった。負けたとしても、みんなで「やり切ったね」「楽しかったね」と笑いながら終わりたかった。

私がふさぎ込んでいたら、母が励ましてくれた。「先生もいろいろ考えてくれるはずよ」と。父も同じように励ましてくれた。たしかに、いつまでもふさぎ込んでいてはだめだと思った。これでソフトボールができなくなるわけではないし、仲間と離ればなれになるわけでもない。後輩たちに私たちの目標をかなえてもらうためにも、引退するまでがんばらないといけない。最後まで部活動を楽しもうと思った。

地区総体はなくなってしまったけど、今までがんばってきた3年間が無駄だとは思わない。部活動で学んできたことを、今後につなげていこうと思う。

自分たちの思い 後輩へ 3年 高橋 一粋



学校から「地区総体中止」のお知らせが送られてきました。翌日、学校に行くと普段と違った雰囲気、教室は重い空気につつまれていました。友達みんなが沈んだ表情でした。いつも元気な友達でも、その日だけは暗かったように思います。

自分たち3年生にとっては最後の大会です。最後ということは、同じチームのみんなと一緒にプレーできることが最後ということです。地区総体だけでなく、様々な大会、他の中学校との練習試合、さらには部活動すらできない状況が続いています。「だれも悪くないのに」と心で思いながらも「悔しい気持ち」と、なぜか「怒り」の気持ちが出てきます。悔しい気持ちは「同じチームの仲間と一緒に野球がしたかった」という思いで、「怒り」は少し意味が違うのかもしれないけど「中1の時から練習してきたのは何のためなのか」「自分は一体何のためにやってきたのか」という気持ちです。本当に悔しいです。

これから自分たちにできることを考えました。後輩のために、今まで教えることのできなかったことを教え伝えていくなど、いろいろなサポートをしていきたいと思います。自分たちができなかったこと、3年生でやりたかったことを後輩たちがそのまま引き継いで、達成してくれることを信じています。でもやっぱり、最後はチームの仲間、先生、コーチとばか笑いをしながら、地区総体を戦いたかったです。

